集団キャンプ

中幌呂に憩う

五本孝幸隊長以下一六四名の中幌呂におけるキャンプ生活は素晴らしいものだつたという……

中幌呂キャンプ実施計画案

昭和三十九年七月二十日付

Ⅰ 目的

○自然に親しみ、高校生活をより有意義にし、健康かつ健全な共同生活を送る

Ⅱ 実施期間

○七月二十九日～八月一日（三泊四日）

Ⅲ 実施場所

○中幌呂でブロック工場跡、及び中幌呂中学校。

Ⅳ 参加人員

男子　九十二名
女子　七十二名
先生　十名

Ⅴ キャンプ隊機構

隊長　五本

副隊長　伊東
輸　送　中村
物品輸入管理　遠藤
衛生管理　早坂
生活指導　畦田
会　計　松本

Ⅵ 輸　送

一、先発隊
生徒十二名、及び器楽部員全員。
先生四名。

二、本隊
生徒全員

○七月二十九日　AM九時
新富士駅前に集合

三、持物
七月二十八日　AM九時　湖陵高校に集め、先発隊、一括してトラックで輸送する。

四、乗物
本隊＝＝＝軌道車二両

Ⅶ 行事日程

七月二十九日
※器楽部市中パレード
○到着～四時　作業
○四時～六時　夕食
○七時～九時　ダンスパーティ及びファイアーストーム。
○十時　就寝

七月三十日
AM
○六時　起床
○六時半　ラジオ体操
○七時～九時　朝食
○九時～十時　器楽部演奏会
小、中学生対象（於中幌呂中学校）
PM
○一時　交歓会
軟式野球（於中幌呂中グランド）
対　村役場　㊇大洋
バレーボール
（於中幌呂小グランド）
対　郵便局
○四時～六時　料理コンクール
兼夕食
○六時半～九時半　芸能大会
音楽会
（器楽部）
○十時　就寝

七月三十一日
AM
○六時　床起
○六時半　ラジオ体操
○七時～九時　朝食
○九時半～十時半　サットクライミング
PM
○夕刻　器楽部演奏会
（一般人対象　於中雪裡）
○四時～六時　夕食
○七時～十時　ダンス
ファイアーストーム
音楽会（みんなで歌おう）
○十時半　就寝

八月一日
AM
○六時　起床
○六時半　ラジオ体操
○七時～九時　朝食
○九時～十時　黒ん坊大会
○十時　帰釧用意
（以上）

青春賛歌

三年　蔦田路子
二年　菊地哲雄

☆　内容の重複をさけるため、蔦田さんの文を軸とし、☆
☆　菊地くんの文にある別な見方を「異説」として抜萃　☆
☆　した。

編集部　☆

七月二十九日、新富士発の気動車の中、期待に脹む心を乗せて中幌呂へと……。

◇異説

つらいつらい中間試験も無事終了。そしていよいよ我等学生のシーズンである夏が来たこの夏にも例年のごとく湖陵のキャンプが催される。

こうして行くのにも沢山の事がありました場所が良いからでしようか？　学校キャンプなので家が許してくれたからなのでしようか？　随分多くの希望者がありましたが、いろいろな問題があつたらしく参加者を決めるのに生徒会の方も大変苦労されたらしく、最も公平な抽選でということになりました。ある日の放課後、運動場は大さわぎ、やつと百名近くの参加者が決まり、再三の説明会などがあり三泊四日のこのキャンプへ……。そのうち気動車は目的地へ着きました。

◇異説

朝八時四十分頃（くわしくはそれに三十二秒が加わる）新富士駅近くのあき地に集合、人員その他を調べて、古典的情緒の感じられるデイゼルカーで目的地へ出発する。その車に一時間ほど（であろう）揺られて原野の中に落される（駅らしきものは見あたらない）

野原の中の道を歩いていると何か音楽が聞えてくるのです。さて？と耳をすませると校歌でした。こうして目的地のより近い事を知り、暑さでグロッキーになりかけていた人々の足を早くさせました。

川が釧路ではもう聞けない様な静かな音で流れ、広場の裏手には低いけれども山が。期待通りの素晴らしい所でした。しかし一寸ビックリした事に出合いました。というのは広場の中央にはブロックが山の様に積まれていたのです。しかしここはブロック工場の跡でその管理をされている方が住んでいらつしやる所なので不思議はないのですが……、でもそんなに驚いて立つてはいられません。すぐ入村式です。諸注意を受け、部屋のわりあてをしました。〃部屋〃などと聞くと驚く方もいらつしやるでしよう。キャンプというとすぐテントを思い出しますもの。しかしここは前にも書いた様にブロックに関係のある所、家が三軒あり、そのうち二軒は女生徒が、男

生徒はあとの家とテントに決まり、さつそく以前に運んでおいた荷物を整頓したり、よごれた足をあの川で洗つたり……。

◇異説

昼食をおもいおもいにすませた後は、かなりの人が前の川で泳いでいました。中でも私の視覚に訴えたものは、男子諸君の奇妙な水泳ではなく、三年女子数名の水泳の光景でありました。誤解のない様に言つておきますが私が感じたのは女子諸君そのものではなく、彼女等のおもいおもいの水着であります。

しばらく休んで、中央のブロックを移す仕事にとりかかりました。その日の暑さは釧路ではないくらいでした。でもこれから三日間お世話になる所ですから一生懸命です。あの重いブロックを足の上に落しでもしたら……など余計な心配までしましたが大きな事故もなく仕事を終らせました。みんなが力を合わせるといかに大きなものになるか改めて感じました。

◇異説

朝食をとつてただちに一日中遊んでやるぞとはりきつたのであるが、自由時間はほんの少しでまたまたブロック運び、来年からはキャンプ地選択の場合は、ブロックの見あたらない所に行つてもらいたいものだと痛感。

夕食の後片付けが終ると昼間の疲れもどこへやらダンスが始まりました。若いとはいえやはり疲れたらしく十時就寝でしたがすぐあたりは静かになりました。〃寒い〃そう思つて目をさますともう朝。寒いとは聞いていましたがこんなに寒いとは。でも外へ出るとやつぱり夏、川の流れが気持ちを引きしめてくれました。そして二日間いろいろな行事が行なわれました。町の方々と親善試合。それからかくし芸大会――この時は先生の班が第一位。太田先生の脚本でこのキャンプの事を取りあげた劇で私達を楽しませてくれました。

◇異説

まつたく珍妙な演芸会であつた。特に日頃チョークを持つた時、こわい先生方がた演じ劇に拍手が集まつた様である。

あとは、お料理コンテスト。優勝は男生徒ばかりの班。キャンプにふさわしい簡単でおいしいものだつた。というのが審査の先生のお言葉。でも我班こそとはりきつた女生徒の班にとつては……それにフアイアーストームオリンピックの影響でしようか？松明（？）を持つた本部の方が大きな輪の中に走り出て火をつけると、風のない夜空に美しく映えました。又、ダンスも毎晩行なわれました。時間が少ないという声も聞かれましたがもつと遅くまですると気持良く迎えて下さつた管理の方に迷惑がかかつたでしよう。

◇異説

その頃にはもう皆の中にキャンプムードが沸いて来た様に思いました。夜になるとダンスパーティというやつはおもしろいもんで、昼間は見た事もない顔が（特にブロック運びの時などは）ずらつと勢揃いするのですから

おもしろいものであります。

いよいよこの楽しい生活も終りの日がやつて来ました。暑さで少し疲れて来ましたが、もう少し居たい気持でした。

帰りも来る時と同じ満員の気動車。でも車内の雰囲気はまるで違い、四日間を静かに思い出す人。静かになり過ぎて寝てしまつた人お祭りでにぎわう市内へ帰つてきてしまうと、何かこれで夏休みの全ての行事が終つた様な気持でした。

そして授業が始まり反省会が行なわれましたが、みなとても楽しかつた様でした。キャンプなのでもう少し不便があると思つていましたが、さほど不自由もなく過せました。それには先生や生徒会の方々の大きな力があつたからだと思います。ありがとうございました。来年も今年同様、いえそれ以上の希望者があると思います。その時には一人でも多くの人が参加出来る様にして下さる事を希望しております。

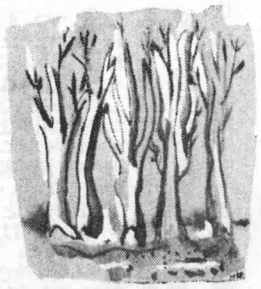
私にとつて、いえ参加した人全てにとつて忘れがたい高校生活の想い出の一つとしていつまでも心の奥に残る事でしょう。

◇異説

私はこの様な学校主催の大がかりなキャンプに参加したのは初めてであります。ですから少し楽しみにしておりました。このキャンプはその期待通りなかなか興味あるものでした。その事は卒業してからでも思い出となるでしょう。

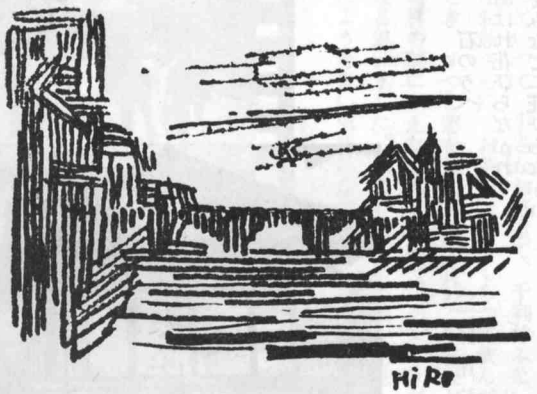
キャンプでのジユリアン・ソレル

二年G組　樋田　文太郎



寝食を共にした生活の中では、親しいつもりの友人であつても、思いがけない一面を発見したり、またそれが自分自身を内省させることになつたりすることがある。

私達が昼食を取つている時だつた。私は皆より早く食べて、少し離れた木影で葉をいじつていると、Aが「ホントに背の高くてボサッとした人だな。」と言つた。「誰がそんな事言つた。」「うん、隣りのテントの人さ。」確かにはたから見たらそうかもしれない。でも私がそういう状態にいる時は、何時でも考え事をしているのだ。それにその〃ボサッとした〃という言葉が気にくわなかつた。何か間の抜けたような。私はジユリヤン・ソレルのように、そう侮辱されて不快だつた。しかし私には何のすべもなかつた。只、それを口づさむだけだつた。「ボサッとした人か。」でもほんとうにあのAという奴はいやらしい

奴だ。ろくつちよ一人前の事も言えないくせに、人に対してはしつこく、皮肉やで、そうかと思うと瞬時に百八十度回転してでれでれと女々しくなつてしまう。また、そんな調子だから変に沈んだりする事も恕つたりする所もあり、私以上に二倍も、否十倍も百倍も心の不安定な、心の知りがたい奴だ。今迄会つた中で最も軽蔑すべき奴だと思う。そんな奴とこれから三日程も同じテントで過ごすなんて真平だ。

けれども、他の者達はAを私のようには思つていないだろう。私の中にある悪い点をAの中に見い出したためだろうか。うん、確かにAと私には何らかの共通点があるようだ。でも、人は共通点を持つ他人を好んでいるのではないだろうか。それが悪い点であるとしても。一般に言う〃気が合う〃というやつだろう。ではなぜ、私が共通点を持つと思われるAをそんなにも卑下するのだろう。私は確かに人より感受性が強く、想像力もある。それが私に誇大視させるのだろうか。でも、それがすべてとは思われない。では私という人間自体が、そういう性質を持つているのだろうか。でもその性質とは？　やはり共通な悪い点を持つ人間を見て、自分の内部を見るようでいやだからAを卑下するのではないだろうか。よしそうとれば、私はAの女々しさなど以上に、卑法な人間という事になるだろうまたその上に、憶病な、見栄つ張りの、自尊心の強い人間という事になるだろう。では、前のジユリヤン・ソレルとは大きく差がでてくる。彼は自尊心は強いが、見栄つ張りでも憶病でもない。ああ！　私がジユリヤン・ソレルよりも器量のない男だとは。いや、まて！このことはまだ証明されてはいないのだ。私がAをどのような心で見、軽蔑しているかにかかつているのだ。